



# 筑北小学校だより

筑北村立筑北小学校

令和8年2月13日 NO.6

今回の学校だよりは11月に実施した学校評価アンケートの結果をお伝えいたします。このアンケートは、学校運営、子どもたち一人ひとりへの支援・指導、授業改善に生かしていくために、保護者、児童、職員に対して行いました。ご協力ありがとうございました。

## ◆◆◆ 保護者アンケート ◆◆◆

### 1 回答状況

対象数 108件      回答数 98件(フォーム94件、紙4件)      回答率 90.7%(前年度73.3%)

### 2 質問項目 (数値は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した合計比率)

(±5ポイントで増減を表示)

NO	質問項目	R6	R7	増減
1	お子さんは、家庭で、よく本を読んでいる	57.7	52.0	↓
2	お子さんは、家庭で、親が言わなくても自分から進んで勉強をしている	70.6	70.4	→
3	お子さんは、場に応じてきちんと挨拶ができる	69.4	83.7	↑↑
4	お子さんは、地域の行事に参加している	85.9	89.8	→
5	お子さんは、友だちとなかよく学校生活を送っている	96.5	99.0	→
6	お子さんは、学校に行くことを楽しみにしている	87.0	92.9	↑
7	お子さんは、家庭で、自分の将来や進路についての話をする	51.7	51.1	→
8	お子さんは、授業がわかりやすいと感じている	92.9	85.8	↓
9	お子さんは、家庭で、学校での出来事や友だちのことについて話をする	89.4	85.7	→
10	学校からのお便りやホームページは役に立っている	97.7	98.0	→
11	先生に相談したり、要望を伝えたりしやすい学校になっている	95.3	97.9	→
12	学校は、全体として期待に答えてくれている	94.1	100	↑

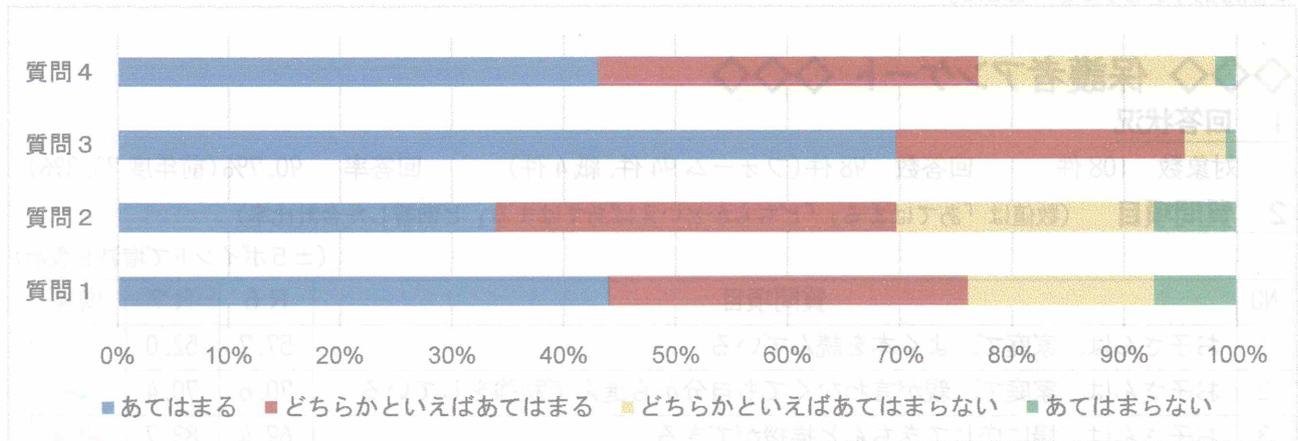
### 3 考察

- 昨年度より Google フォームに変更。本年度は QR コード入りの通知を紙配付し、Home & School でフォームへのリンクも配信した。また、締め切り前日に再度メールを配信して協力を依頼した。QR コードやリンクの活用、フォーム回答への慣れが、回収率の大幅な向上につながったと思われる。
- ①「家庭でよく本を読んでいる」が低下した。スマートフォンやタブレットによる動画視聴やゲームなどの時間が増加傾向にあり、家庭での時間の使い方が変化している。スクリーンタイムの設定やペアレンタルコントロールの重要性を保護者に伝えていく必要がある。
- ③毎年の課題となっていた「場に応じた挨拶ができる」が大きく向上した。今年度は6年生が率先して挨拶の輪を広げてくれているが、学校での指導に加え地域や家庭での意識の高まりがうかがえる。
- ⑥「学校に行くことを楽しみにしている」が向上し、⑤「なかよく過ごしている」もほぼ全員が肯定的回答であり、安心・安全な居場所づくりにつながっている。
- ⑧「授業がわかりやすいと感じている」が低下した。⑥学校生活の楽しさは向上している一方で、学習内容への理解度や達成感に課題が生じている可能性がある。
- ⑩相談しやすい学校であるという回答も高水準を維持しており、先生方が保護者の声を受け止め、丁寧に対応していただいていることが分かる。
- ⑫「学校が期待に答えてくれている」という回答が年々増加している。保護者に信頼されている学校であるということを真摯に受け止め、これからの学校運営を進めていきたい。

# ◇◇◇ 児童アンケート ◇◇◇

## 1 「つづける子」に関する質問

質問1 昨年度と比べて朝や休み時間など、体を動かして遊んでいますか	肯定的回答76%	±0
質問2 昨年度と比べて読書を進んでしていますか	肯定的回答70%	+9
質問3 学校の宿題をしていますか	肯定的回答96%	+3
質問4 「早寝・早起き・朝ごはん」ができていますか	肯定的回答77%	-2

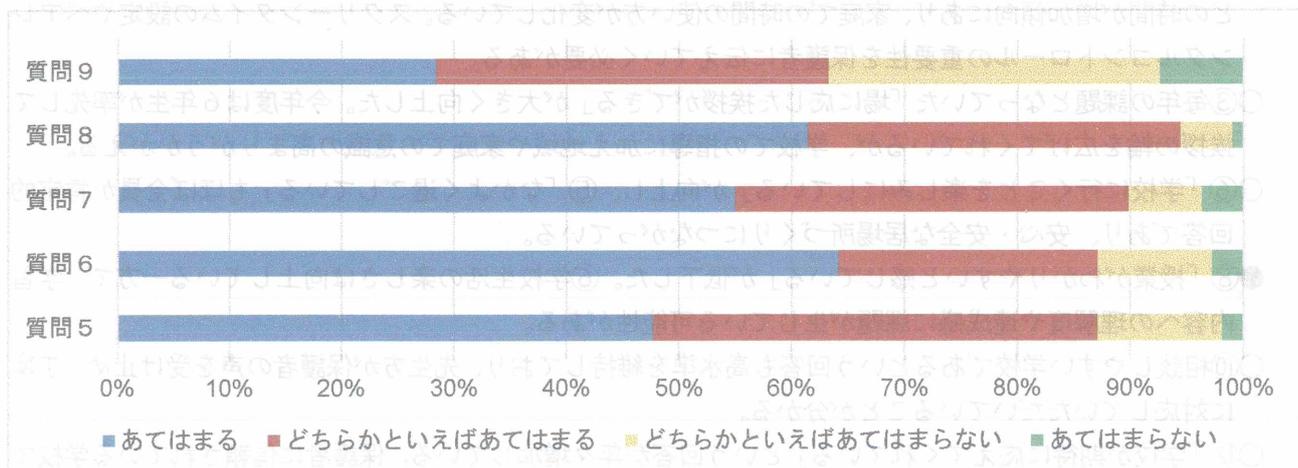


読書については、昨年度に引き続き結果を上回った。継続的に取り組んできた読書デーや読み聞かせ活動、担当職員を中心に読書を薦める取り組み（図書館のレイアウト変更や図書委員会企画を含め）が定着してきた成果といえよう。運動については昨年度と変化はないが、「あてはまる」と明確に答えた児童の割合は増えてきている。

質問4については、昨年度に引き続き、低下傾向となってしまった。高学年になるほど否定的回答がやや増える傾向にあり、別アンケートのゲーム利用時間と関連づけると、生活が整わない児童の割合が増えてきていることが考えられる。今年度も、保健だよりや生活指導で呼びかけてもいることを大切に、声掛けを継続していきたい。また、PTAとも協力して講演会の実施も検討していきたい。

## 2 「つながる子」に関する質問

質問5 友だちや先生にあいさつしていますか	肯定的回答87%	-1
質問6 地域の方にあいさつを返していますか	肯定的回答87%	+5
質問7 今住んでいる地域の行事に参加していますか	肯定的回答90%	+7
質問8 友だちと仲良く学校生活をしていますか	肯定的回答94%	-1
質問9 友だちの前で自分の考えや意見を発表しようとしていますか	肯定的回答63%	-6



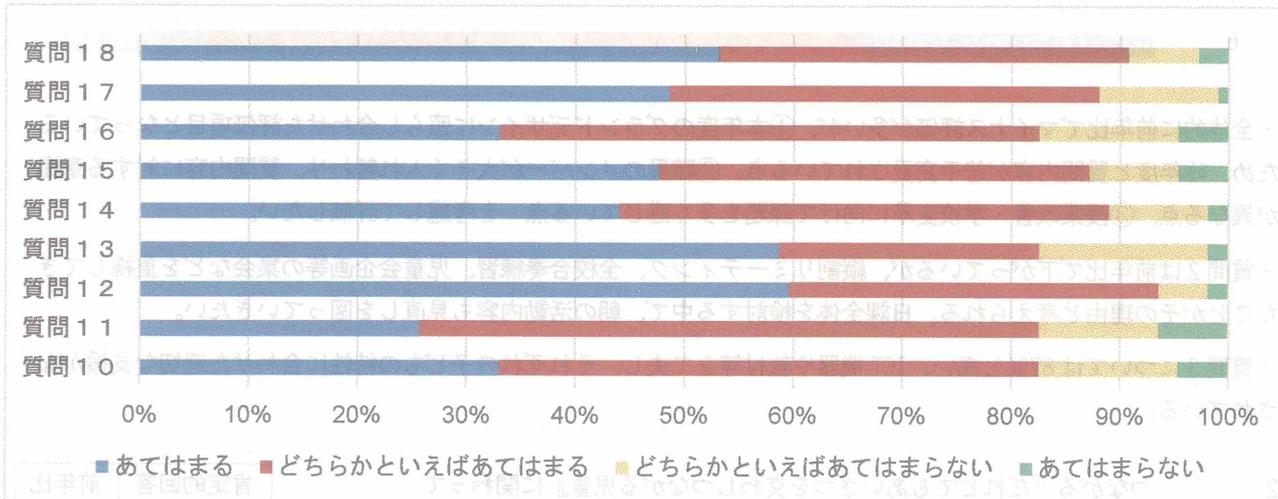
質問6、7といった、地域の中での行事やあいさつといった活動は、昨年度を上回る結果となった。また、質

問項目5は、1ポイント下がりでしたが、あいさつを意識的に行えている児童の割合は高い傾向にある。これは、今年度の児童会活動や学校全体で廊下歩行などを意識した成果が繋がってきていると考えられる。あいさつは、互いをよく知り、つながり合うために大切にしたい行動である。子どもたちからあいさつ活動の発信を意識できる取り組みを児童会の活動などを中心に計画したり、担任（大人）からのあいさつの頻度を上げたりすることで、引き続きあいさつの向上を目指したい。

質問9「友だちの前で自分の考えや意見を発表しようとしていますか。」という質問については、昨年に引き続き低下傾向である。日ごろからペアやグループ学習などの中で、友だちと関わり合う活動を意識的に取り入れ、自分の考えを伝えることへの抵抗感を減らせるようにしていきたい。また、発表の仕方を丁寧に指導したり、モデルを示したりすることも継続して大切にしていきたい。

### 3 「自信をもってかがやく子」に関する質問

質問10	学校に行くのは楽しいと思いますか	肯定的回答83%	+5
質問11	自分には、よいところがあると思いますか	肯定的回答83%	+10
質問12	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	肯定的回答94%	+2
質問13	将来の夢や目標をもっていますか	肯定的回答83%	-4
質問14	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	肯定的回答89%	-2
質問15	家庭で考えや思いを聞いてもらっていますか	肯定的回答87%	+2
質問16	外国語の時間に、進んで英語を使っていますか	肯定的回答83%	+3
質問17	授業はよくわかりますか	肯定的回答88%	-3
質問18	学校で進んで学習していますか	肯定的回答91%	-4



変化の大小はあるが全ての項目において肯定的な回答が多い結果となった。特に質問10、「学校に行くのは楽しいと思いますか」や11「自分には、よいところがあると思いますか」では、ポイントを伸ばし8割以上の子どもたちが、「自分の活動に対して前向きに捉えられるようになってきている」と考えられる。これは、質問14「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」や質問15「家庭で考えや思いを聞いてもらっていますか」について、およそ9割の子どもたちから肯定的な回答が得られており、「教職員の子どもたち一人ひとりに目を向けた学校での指導」や「保護者のあたたかな家庭での支援」が、子どもたちの意識の変化に少なからぬ影響を与えているものと思われる。

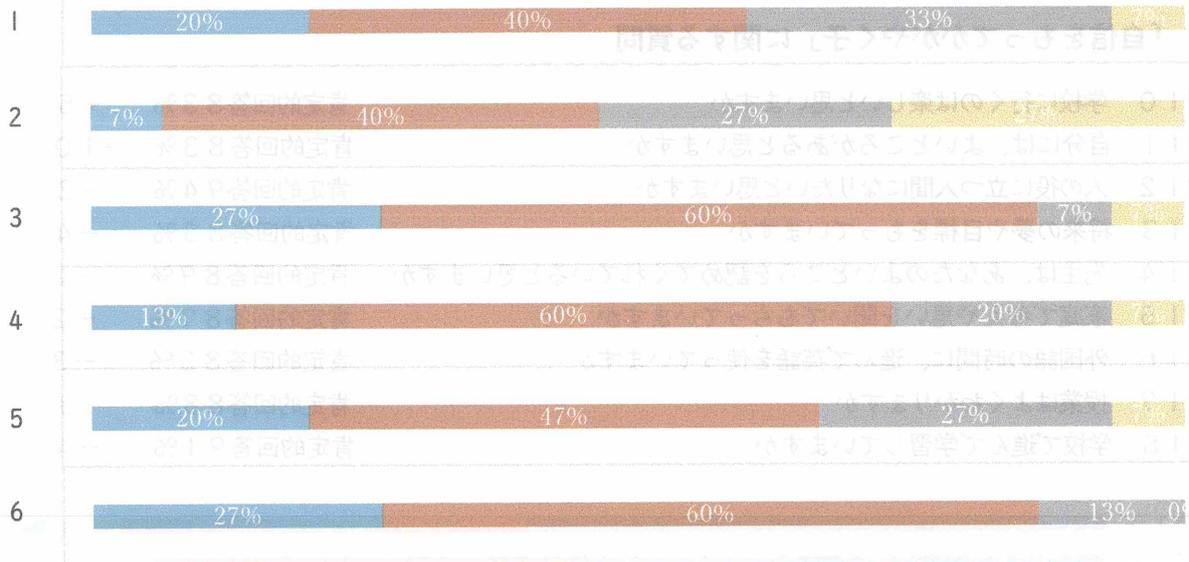
一方で、質問17、18では、昨年度をやや下回ってしまった。どの子ども取りこぼさない授業、子ども同士で学び合う授業の構築などに取り組み、学ぶ喜びにつながる授業を進めていきたい。



## ◆◆◆ 職員アンケート ◆◆◆

- 1 つづける『願いに向かって自ら学び続ける児童』に関わって
- 質問1 ICTの活用や学び合いで、学習者が主役の授業展開を行ったか
- 質問2 週2回のドリル学習が充実するように考えられたか
- 質問3 1人ひとりによりそった学習支援ができたか
- 質問4 ICT機器を活用した授業が日常的に行えているか
- 質問5 子どもたちの読書活動が広がる支援ができたか
- 質問6 子どもたちの基本的な生活習慣（あいさつ・運動・清掃・授業への取り組み方）の育成に関わる支援ができたか

肯定的回答	前年比
60%	-13
47%	-33
87%	-2
73%	-12
67%	-14
87%	-7



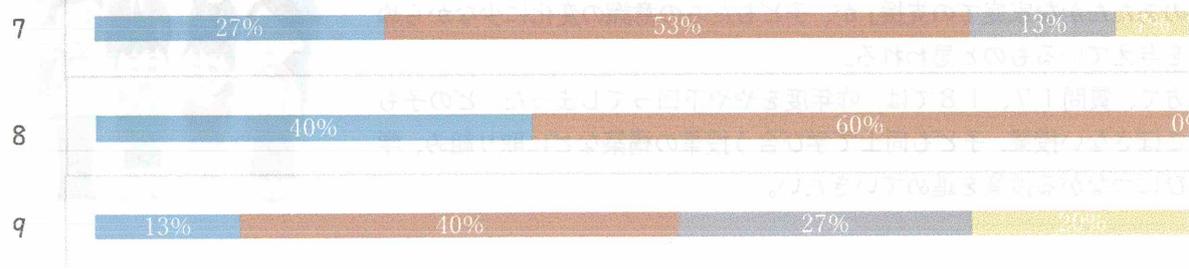
・全体的に前年比でマイナス評価が多いが、①本年度のグランドデザインに照らし合わせた評価項目となっているため、昨年度と質問内容が若干変更されている点、②職員のメンバーが大きく入れ替わり、質問内容に対する意識が異なる点、③授業改善・学校変革に向けて課題を多く感じている点 を考慮して評価したい。

・質問2は前年比で下がっているが、縦割りミーティング、全校合奏練習、児童会企画等の集会などを重視してきたことがその理由と考えられる。日課全体を検討する中で、朝の活動内容も見直しを図っていきたい。

・質問3については87%と高い。ICT機器や教材等を工夫し、それぞれの子どもの特性に合わせた適切な支援がなされている。

- 2 つながる『だれとでもあいさつを交わしつながる児童』に関わって
- 質問7 子どもたちがたてわり班での活動で他学年と関わるような支援ができたか
- 質問8 自分から積極的に子どもたちにあいさつしたり、あいさつができるように指導したりすることができた
- 質問9 講師・外部講師等を積極的に活用したり、地域に出かけたりして、他者とつながる学習の場を設定できたか

肯定的回答	前年比
80%	-8
100%	+11
53%	-24



・質問7で若干のマイナスであるが、縦割り活動が様々な場面で行えた。内容をさらに充実させる必要もあるが、リーダーを6学年以外に任せる活動も考えるとより充実すると思われる。

・質問8は、教職員の働きかけ、児童会の活動等により、昨年よりさらに子ども自身が意識してあいさつをするが広がった。この雰囲気を維持したい。

・質問9は、昨年度より下がっている。他学年との交流等で自分の学年以外とつながる活動は増えてきている。地域に出かける活動はそれぞれの学年で行っていたが、様々な授業・活動でも地域講師をさらに活用すると、地域とのつながりがより強くなると思われる。

- 3 じしんをもってかがやく『学びや考えを自分なりに表現する児童』に関わって
- 質問 10 子どもたちが、外国語や外国の文化に親しみ、英語を話す必要性のある授業展開を考えることができたか
- 質問 11 子どもたちが、進んで自分の考えを発表したり対話したりする活動を取り入れた授業を行ったか
- 質問 12 ふるさと学習を探究的な学習にするための支援を行ったか
- 質問 13 他者や地域に対し表現する場を設定できたか
- 質問 14 子どもたちの自尊感情を高める支援ができたか

肯定的回答	前年比
46%	-34
74%	-18
47%	-26
60%	+10
87%	-8



・質問10では、昨年度比で下がっている。楽しく外国語や英語に親しんでいる様子はいかがえるが、より必要性のある場の設定を意図的に展開していく必要があると思われる。

・質問12は、昨年の「発信」から「表現」に変更したことで、発表会やネット発信だけでなく、普段の授業や活動等において、教職員が様々な表現の場を設けることで、子どもたちが活躍できていると思われる。

※体罰に関する記述は、保護者、児童、教職員のいずれにもありませんでした。

◇◇◇ 全体を通して ◇◇◇

特に「あいさつ」「読書」について、前年より肯定的な回答が増え、ご家庭や地域の方にもご協力いただきながら、本校がよりよい方向へ進んでいることが分かりました。また、「自分にはよいところがある」という子どもたちの声が増えたことを、何よりもうれしく思います。一方で教職員の厳しい自己評価、特に授業改善については大きな課題として真摯に受け止めてまいります。来年度、筑北小学校は大きく変わります。長野県教育委員会のウェルビーイング実践校「TOCO-TON(トコトン)」の指定を受け、子ども、保護者、教職員、地域のすべてがしあわせになる学校づくりをめざします。引き続き、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

校長 野口隆徳

【付録】 冬休み中に実施した「次年度学校構想アンケート」結果（回答数33）

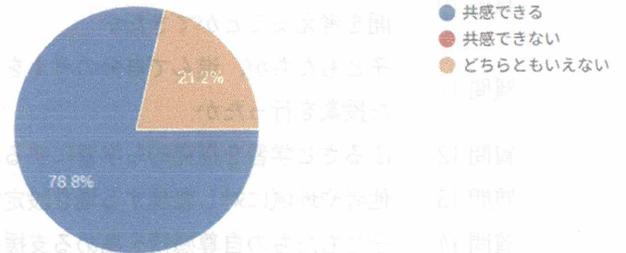
「小さな村の幸せな小学校」はどうですか

32 件の回答



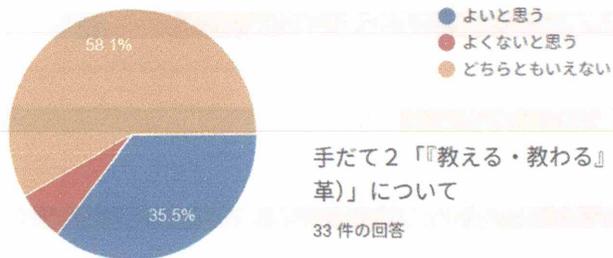
「子どもも大人も共に学び合い、育ちあう学校」はどうですか

33 件の回答



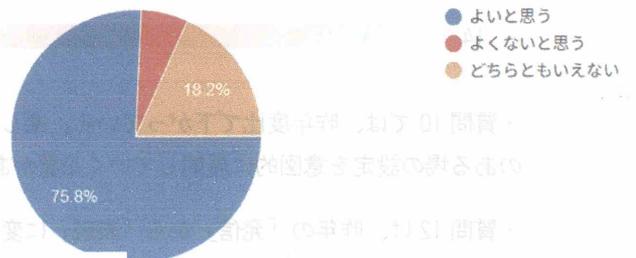
手だて1 「5時間授業日を増やし放課後の時間を」について

31 件の回答



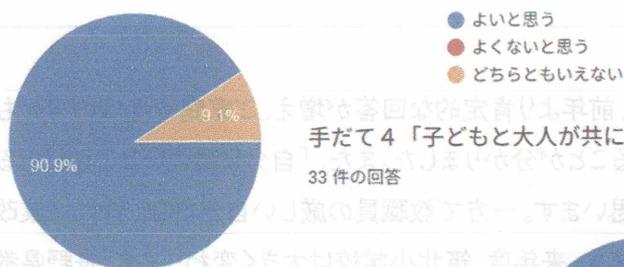
手だて2 『教える・教わる』から子ども同士が学び合う授業へ（学びの改革）」について

33 件の回答



手だて3 「他学年や地域の方とつながる『たいようの時間』」について

33 件の回答



手だて4 「子どもと大人が共につくる学校」について

33 件の回答

